

おわりに

本書は、日本学校教育相談学会が企画し、学校教育相談の理論と実践に関して造詣が深く、教育現場等の第一線で活躍している会員の方々の協力を得て、ようやく出来上がったものです。執筆を担当して下さった方々にお礼申し上げます。また、本書の発刊に全面的にご協力くださった、ほんの森出版の小林敏史様、ありがとうございます。そして何よりも、本書をお読みくださった読者の皆様、心より感謝申し上げます。

現在の教育現場は、不登校、いじめ、校内暴力、発達障害、自死、ヤングケアラー、虐待、貧困など、課題が多様化しています。教職員の業務の多忙化も問題視されています。また、地球温暖化、戦争など、地球規模の社会環境も不安な要素が山積みです。このような環境の中で、未来を生きていく子どもたちに向けて、どのような支援ができるのでしょうか。

私は、子どもの「自立に向けた支援」が非常に重要だと考えています。自立とは、他者の支援を借りずに1人で頑張ることではなく、他者の支援を上手に活用しながら自ら抱える課題を解決していくことなのではないでしょうか。具体的には、「助けて」「教えて」「困っています」と周囲の人に言えること、相談できることがポイントになると思っています。

同様に教職員や支援者の側も、相談を受けるだけでなく、自身の周囲の方々に相談できることが大切になるでしょう。教職員や支援者が1人で対応するのではなく、チームで支援すること、チームの資源を上手に活用できることが求められているのではないのでしょうか。そのためにも、教職員や支援者が教育相談のスキルを身につけること、そしてスキルアップしていくことが、ますます重要になっていると思います。

本書が、教育現場にかかわる教職員や支援者の方々にとって、これからの学校教育相談の理論や実践のあり方について考え、取り組んでいくために少しでも役立つものとなればと、心より願っております。

2024年11月

梅川康治